

政策会議の講演要旨

1 開催日時 令和4年（2022年）7月7日（木）10：30～12：00

2 出席者 知事、副知事、教育長、産業政策監、危機管理部長、総務部長、県民文化部長、こども若者局長、健康福祉部長、環境部長、産業労働部長、営業局長、農政部長、林務部長、建設部長、会計管理者兼会計局長、公営企業管理者職務執行者企業局長、危機管理部次長、企画振興部次長、総務部次長、県民文化部次長、健康福祉部次長、環境部次長、産業労働部次長、観光部次長、農政部次長、林務部次長、建設部次長、企業局次長、教育委員会次長、佐久地域振興局長、上田地域振興局長、南信州地域振興局長、木曾地域振興局長、松本地域振興局長、北アルプス地域振興局長、長野地域振興局長、北信地域振興局長 ほか

3 講演

講師	占部まり氏（宇沢国際学館 代表取締役）
演題	「社会的共通資本」を考える ・次期総合5か年計画の策定に向けて、社会的共通資本への認識を深める。
講演内容	<ul style="list-style-type: none">・講師の父である故宇沢弘文氏は、東京大学にて数学・経済学を学んだのち、アメリカのスタンフォード大学、シカゴ大学において数理経済学分野で数々の業績を上げ、多くの研究者との対話を重ねる中で、社会的共通資本の考え方に至った。・アメリカでの活躍の後、日本に帰国したが、高度経済成長の裏側で発生していた自然破壊や公害問題に衝撃を受け、自動車の社会的費用の計測を試みた「自動車の社会的費用」を出版しベストセラーになった。・1991年、ローマ法王のヨハネ・パウロ二世が新しい「レールム・ノヴァルム」（回勅）を出す際には、ベルリンの壁の崩壊などの社会情勢を鑑みて「社会主義の弊害と資本主義の幻想」を主題として提言し、採用された。・その後は成田空港問題等に関わりながら、社会的共通資本の考えを深めていった。・宇沢氏が提唱した社会的共通資本は、自然環境、社会的インフラストラクチャー、制度資本から構成され、すべての人々がゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にする自然環境や社会的装置である。・社会的共通資本は、専門家集団によって、高い倫理観と知識を持って運営されなければならない。・社会的共通資本の一つである医療においては、医療が経済に合わせるのではなく、経済が医療に合わせるべきである。医療が社会の安定化に資することは、新型コロナウイルス感染症への対応を見ても明らかである。・地球規模での未来を考える上では、地球環境への対応が必要であり、比例型

	<p>炭素税が有効である。また占部氏は、社会と生態系の持続可能性を支える「拡張生態系」の取組や、都市集中型の未来に対するオルタナティブを求める「風の谷プロジェクト」に関わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済は人間の心があって初めて動き出すもので、原点は心。 ・ゆたかな社会とは、すべての人々が、その先天的、後天的資質と能力を十分に生かし、それぞれのもっている夢とアスピレーションが最大限に実現できるような仕事にたずさわり、その私的、社会的貢献に相応しい所得を得て、幸福で、安定的な家庭を営み、できるだけ多様な社会的接触をもち、文化的水準の高い一生を送ることのできるような社会である。
<p>質疑応答 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医師である占部氏のキャリアに対する質問があった。 ・風の谷プロジェクトに関する質問があった。 ・長野県にはお金に換算できない価値が多くあり、社会的共通資本の考え方と親和性がある。 ・次期計画にも社会的共通資本の考え方を盛り込んでいきたい。